

20・30代の結婚・出産観

—当研究所第5回「結婚・出産に関する調査」結果より—

当研究所は、2005年から毎年1回、結婚や出産に真剣に向き合う年齢層である20・30代を対象に「結婚・出産に関する調査」を実施している。この調査は、既婚者と独身者のそれぞれに同種の調査を行って、結果を比較考察するところに特徴がある。本稿は第5回調査結果のうち、「結婚・出産にかかる期待と現実」、「結婚前同居が結婚に及ぼす影響」および「子どもがいくつになるまで育児に専念したいか」の3点について、集計・分析結果を報告する。

I 調査の概要

- (1) 調査時期 : 2009年3月10～17日
- (2) 調査対象 : 20・30代の男女
- (3) 調査方法 : インターネット調査
- (4) 調査エリア : 全国
- (5) 抽出方法 : 「マクロミルモニタ」の20・30代男女から割当無作為抽出
- (6) 調査委託先 : (株)マクロミル
- (7) 標本数 : 7,965人(既婚者3,875人・独身者4,090人)

図表1 年齢階層別の標本数

		回答数(人)		
		既婚者	独身者	計
女性	20～24歳	510	514	1,024
	25～29歳	513	510	1,023
	30～34歳	515	510	1,025
	35～39歳	513	510	1,023
	計	2,051	2,044	4,095
男性	20～24歳	274	511	785
	25～29歳	521	512	1,033
	30～34歳	513	510	1,023
	35～39歳	516	513	1,029
	計	1,824	2,046	3,870
合計		3,875	4,090	7,965

※男女計等を集計・分析する際は、わが国の年齢別人口を用いて回答数を補正(ウェイトバック)している。

II 結婚・出産にかかる期待と現実

1 出会いへの期待と現実

(1) 既婚者の結婚相手との出会い、独身者が期待する出会い

既婚者が現在の配偶者と出会ったのは、「勤め先の職場」(男性30.0%、女性31.6%)が最も多く、次いで「友人の紹介」(男性21.6%、女性19.6%)、「学生時代のクラス・サークル」(男

性 12.3%、女性 11.0%) の順であった。

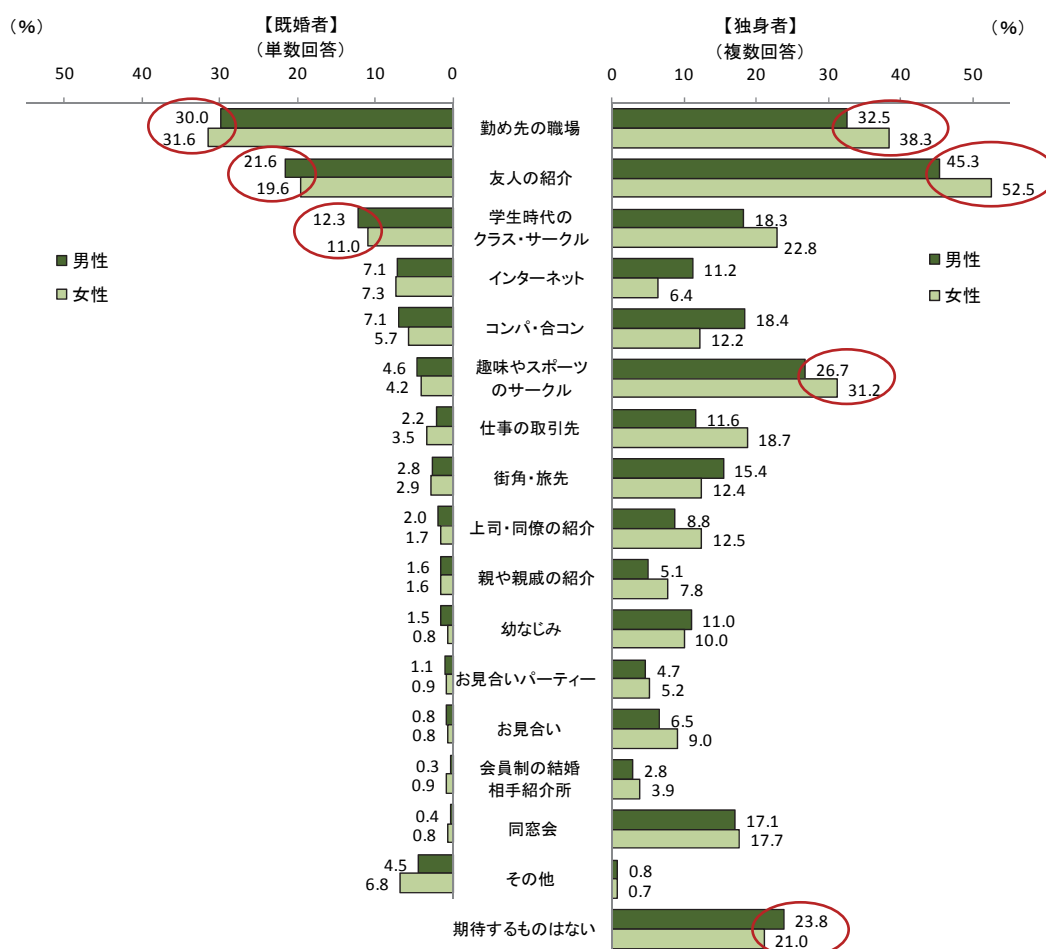
独身者が結婚相手との出会いを期待するのは、「友人の紹介」(男性 45.3%、女性 52.5%) が最も多く、次いで「勤め先の職場」(男性 32.5%、女性 38.3%)、「趣味やスポーツのサークル」(男性 26.7%、女性 31.2%) の順であった。なお、「期待するものはない」という消極的な回答をした独身者が、男性 23.8%、女性 21.0%もいた。

既婚者は単数回答であるのに対して、独身者は複数回答であるため単純には比較できないものの、「インターネット」は既婚者 4 位に対して独身者 11 位、「同窓会」は既婚者 15 位に対して独身者 5 位(いずれも男女計の順位)となっており、独身者の期待と既婚者の現実との間にギャップがみられる項目も存在する(図表 2)。

(2) 男女の期待の差(独身者)

独身者の回答について男女差を見た。「友人の紹介」、「仕事の取引先」などは女性が男性を上回り、反対に「コンパ・合コン」、「街角・旅先」、「インターネット」などは男性が女性を上回る。女性が男性に比べて、より堅実な出会いの機会を求める傾向は、現在においてもあまり変わっていないのかもしれない。

図表 2 既婚者の結婚相手との出会い、独身者が期待する出会い



2 結婚への思い（独身者）

（1）何歳までに結婚したいか

独身者の「結婚したい」年齢の平均は、男性が 33.3 歳、女性が 32.0 歳で前回の調査より、男女とも 0.3 歳若くなっている（図表 3）。

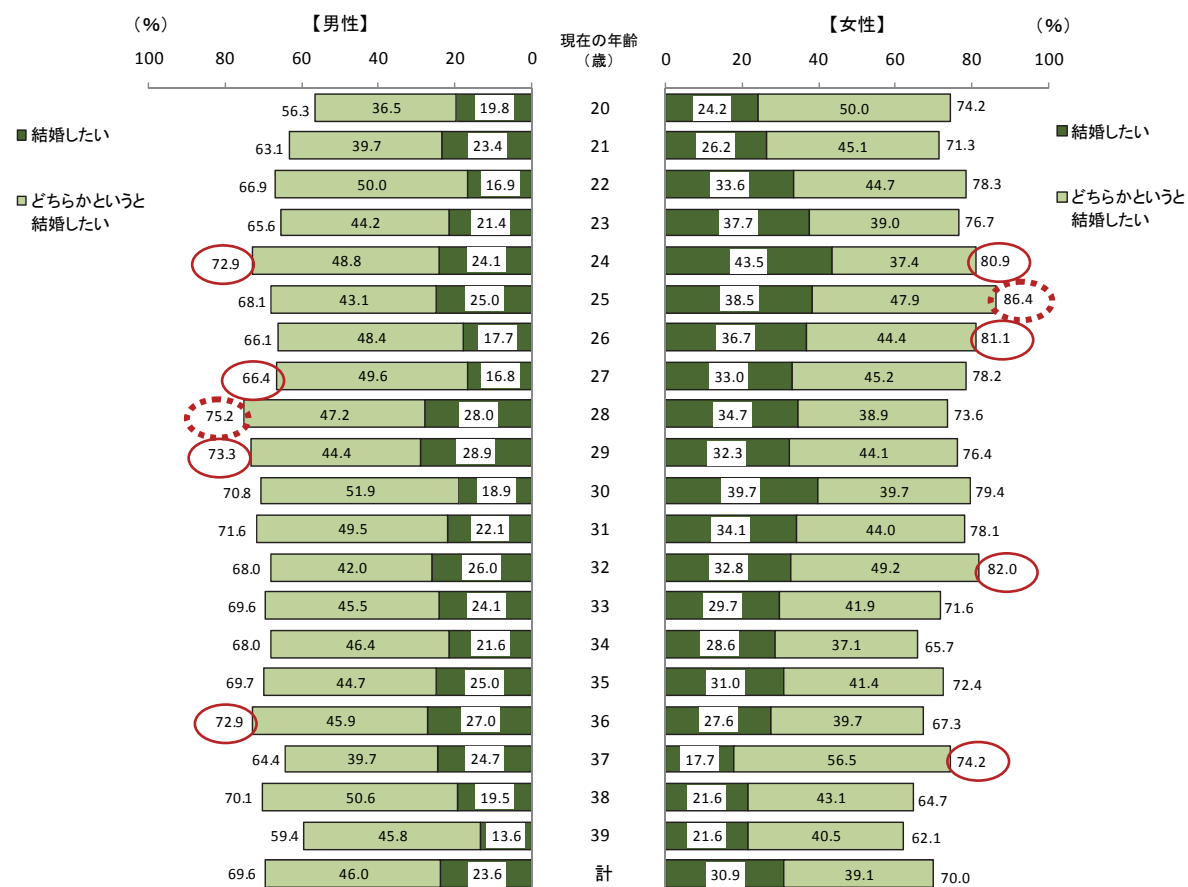
図表 3 結婚したい年齢

	2008年	2009年	前年との差
男性	33.6歳	33.3歳	-0.3歳
女性	32.3歳	32.0歳	-0.3歳

（2）どの程度結婚したいか

独身者に「現在、どの程度、結婚したいか」を 4 段階で聞いた。「結婚したい」と「どちらかという結婚したい」の合計をみると、男性は 28 歳 75.2%、女性は 25 歳 86.4% にピークがある。男性のピーク年齢より 1 歳年上の 29 歳は 73.3% と 2 番目に結婚意欲が高い年齢であるのに対して、1 歳年下の 27 歳は 66.4% と意欲が低い。他方、女性のピーク年齢の 1 歳年上・年下は、26 歳 81.1%、24 歳 80.9% と両方とも高い意欲を示している。（図表 4）。

図表 4 どの程度結婚したいか

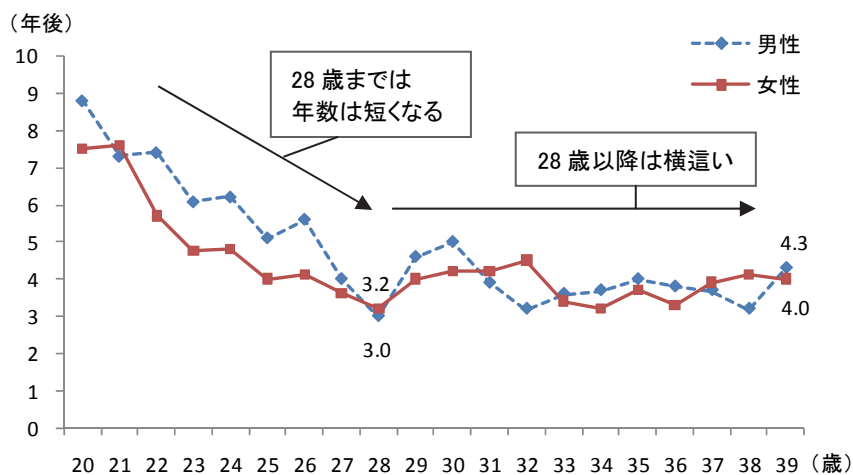


全体を眺めると、男性 28 歳、女性 25 歳を頂点に山のかたちになるのではなく、いくつかの小さな山が分散して存在する。男性では 24 歳と 36 歳、女性では 32 歳と 37 歳にも結婚意欲の高い年齢がある。

(3) 何年後に結婚したいか

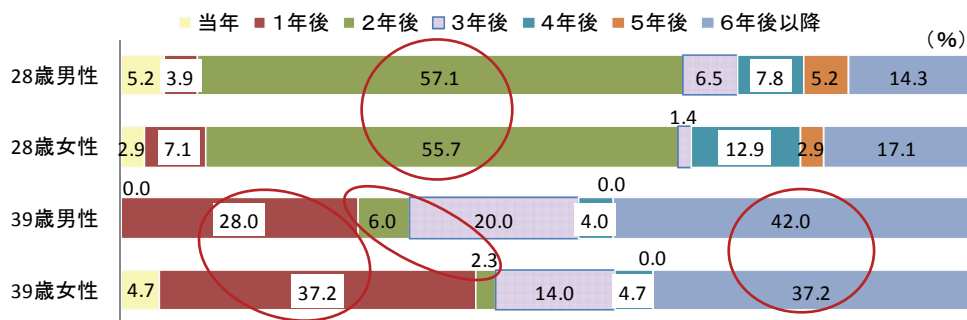
何年後に結婚したいかを年齢別に見ると、20 歳から 28 歳に向けてその年数が短くなるのは当然に予測されたことであるが、28 歳以降は予測に反して横這いに転じて、女性では概ね 3 年後～4 年後の範囲に収まっている（図表 5）。

図表 5 何年後に結婚したいか



なぜそうなるのかを考えるために、図表 5 において横這い傾向の起点となる 28 歳と終点となる 39 歳について少し詳しく分析を試みた。その結果、横這い傾向と思われた数字の内訳は大きく変化していることがわかった。図表 6 に示したとおり、28 歳では「2 年後」に結婚したいと答えた男女が過半数（男性 57.1%、女性 55.7%）もいたのに対して、39 歳で「2 年後」と答えた人は 1 割未満（男性 6.0%、女性 2.3%）と大幅に減少して、そのかわりに、「1 年後」あるいは「6 年後以降」と答えた男女が大幅に増えている。40 代を目の前にして、できる限り早く結婚したいと思う人、結婚年齢にこだわりをもたなくなる人がそれぞれに増えるのであろう。

図表 6 何年後に結婚したいか（28 歳と 39 歳の内訳）



Ⅲ 結婚前同居が結婚に及ぼす影響

今回調査対象とした既婚者のうち、約4割は、結婚前に現在の配偶者と同居している。ここでは、それらの約3分の2を占める「結婚を決める前に同居した人」に焦点を当てて、結婚前同居が結婚に及ぼす影響について考察する。結婚を決めた後の同居は、その後に結婚するかどうかには与える影響が限定されるからである。

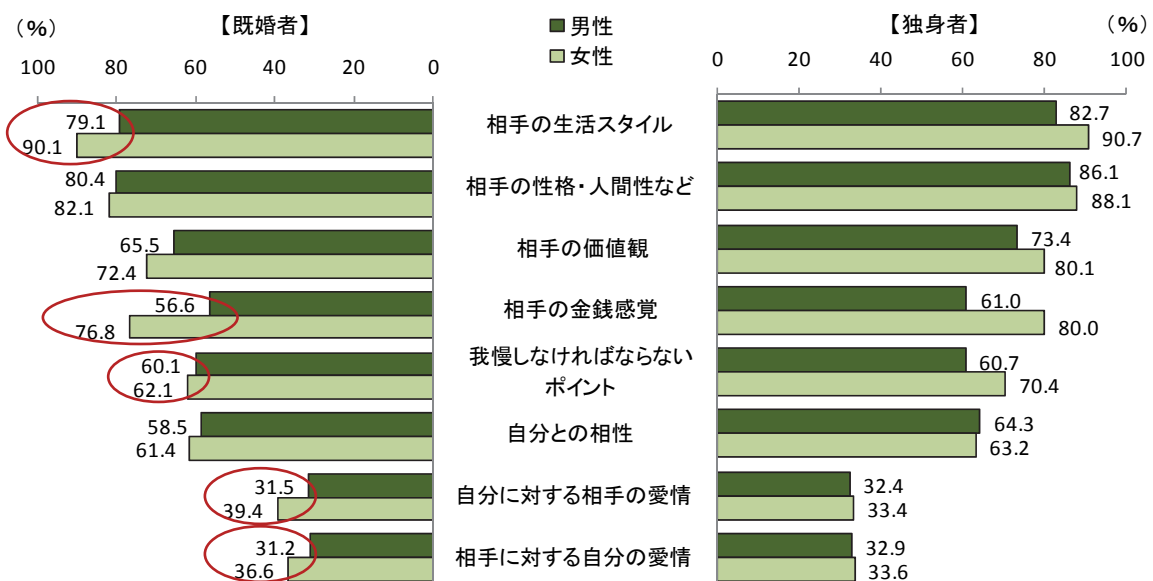
また、独身者の3割弱にも同居の経験がある。それらのうち、約3分の2を占める「過去に同居経験のある人」について分析した結果もあわせて報告する。ちなみに、残りの約3分の1は、調査時点で同居を続けている人である。

1 同居してわかったこと

(1) 既婚者（「結婚を決める前に同居した人」が調査対象）

男女合計でみて最も多かったのは、「相手の生活スタイル」（男性79.1%、女性90.1%）がわかったという回答であった。他方、「自分に対する相手の愛情」あるいは「相手に対する自分の愛情」がわかったと答えた男女は概ね3割強と予想に反して少数であった。相手について「我慢しなければならないポイント」がわかったと答えた男女はその倍に相当する6割強もいた（図表7）。この調査結果をみる限り、結婚前同居の効用は、愛情の確認よりも愛情以外の確認に重点があるようだ。

図表7 結婚前に同居してわかったこと



男女が目立った差がみられたのは、「相手の金銭感覚」がわかった（男性 56.6%、女性 76.8%）という回答であった。女性の回答は男性の回答を 20.2 ポイントも上回った。同居で得る相手の情報について、女性の視点と男性の視点には明らかな違いがある。また、すべての回答選択肢において、女性の回答率が男性の回答率を上回った。同居から得る情報は、男性よりも女性に多い。独身者についても同様の傾向がある。

（２）独身者（「過去に同居経験のある人」が調査対象）

全体の傾向は既婚者の集計結果と似ている。なお、独身者の数字は、ほぼすべての回答選択肢（愛情確認にかかる女性の回答を除く）において既婚者の数字を上回っている。「同居したものの結婚に至らなかった人」（独身者）は同居を経て結婚した人（既婚者）よりも、同居から得た情報が多いことになる。

2 同居は結婚を早めるか

（１）既婚者（「結婚を決める前に同居した人」が主な調査対象）

既婚者を「結婚を決める前に同居した人」と「それ以外の人」に分けて、それぞれが実際に結婚した年齢を比べてみた（「それ以外の人」には、結婚を決めた後に同居した人が含まれる）。これにより、結婚前の同居が結婚年齢を早める効果を持つかどうかについて考えてみたい。

結果は図表 8 に示したとおり、男女ともに「結婚を決める前に同居した人」の結婚年齢（男性 27.1 歳、女性 26.0 歳）は、「それ以外の人」の結婚年齢（男性 27.9 歳、女性 26.7 歳）より若く、結婚を決める前の同居は結婚年齢を早めている可能性がある。男性の差 0.8 歳、女性の差 0.7 歳は、それぞれ統計的に有意な差であった。

図表 8 結婚年齢（既婚者）

	男性	女性
結婚を決める前に同居した人	27.1歳	26.0歳
それ以外の人	27.9歳	26.7歳
差	0.8歳	0.7歳

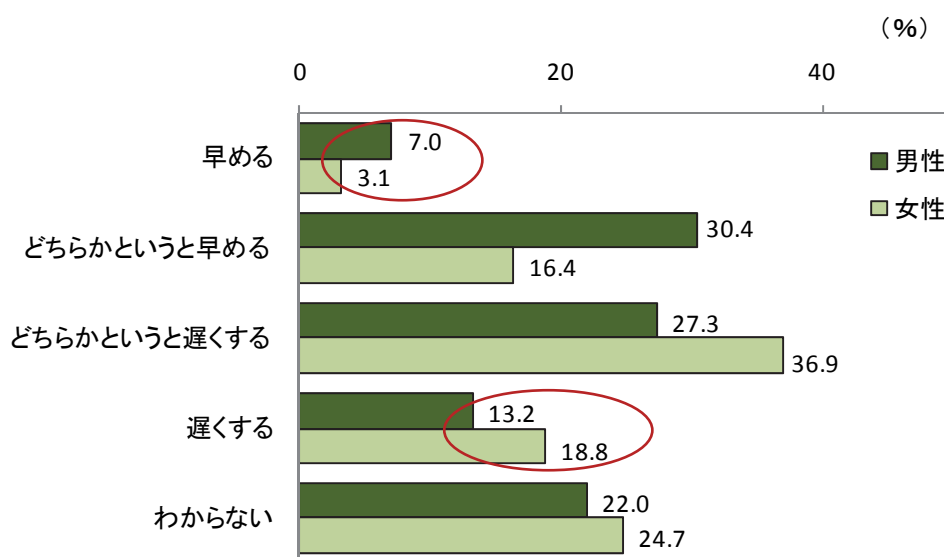
（２）独身者（「過去に同居経験のある人」が調査対象）

独身者には、「同居が結婚時期を早めると思うか」という質問に答えてもらった。結果をみると、予想に反して否定的な回答が多く、「早める」（男性 7.0%、女性 3.1%）に対して、「遅くする」（男性 13.2%、女性 18.8%）であった（図表 9）。肯定的な回答（「早める」＋「どちらかというと早める」）は、男性 37.4%に対して女性 19.5%と、男性に多く女性に少ない。また、否定的な回答（「遅くする」＋「どちらかというと遅くする」）は、男性 40.5%に対して女性 55.7%

と、女性により多い。

図表7でみたとおり、独身者についても同居からより多くの情報を得るのは女性であるが、その効果は必ずしも肯定的なものばかりでなく、むしろ否定的なものが多いのかもしれない。反対に、男性が同居から得る情報は女性より少ないが、結婚に対して肯定的な情報を得る人は女性より多いようだ。

図表9 同居が結婚時期を早めると思うか（独身者）



(3) 同居期間

参考までに、同居経験のある人の平均の同居期間を図表10に示した。「結婚を決める前に同居した人」は18.2カ月間であったのに対して、「結婚を決めた後に同居した人」は7.4カ月間と半分以下であった。

図表10 同居期間

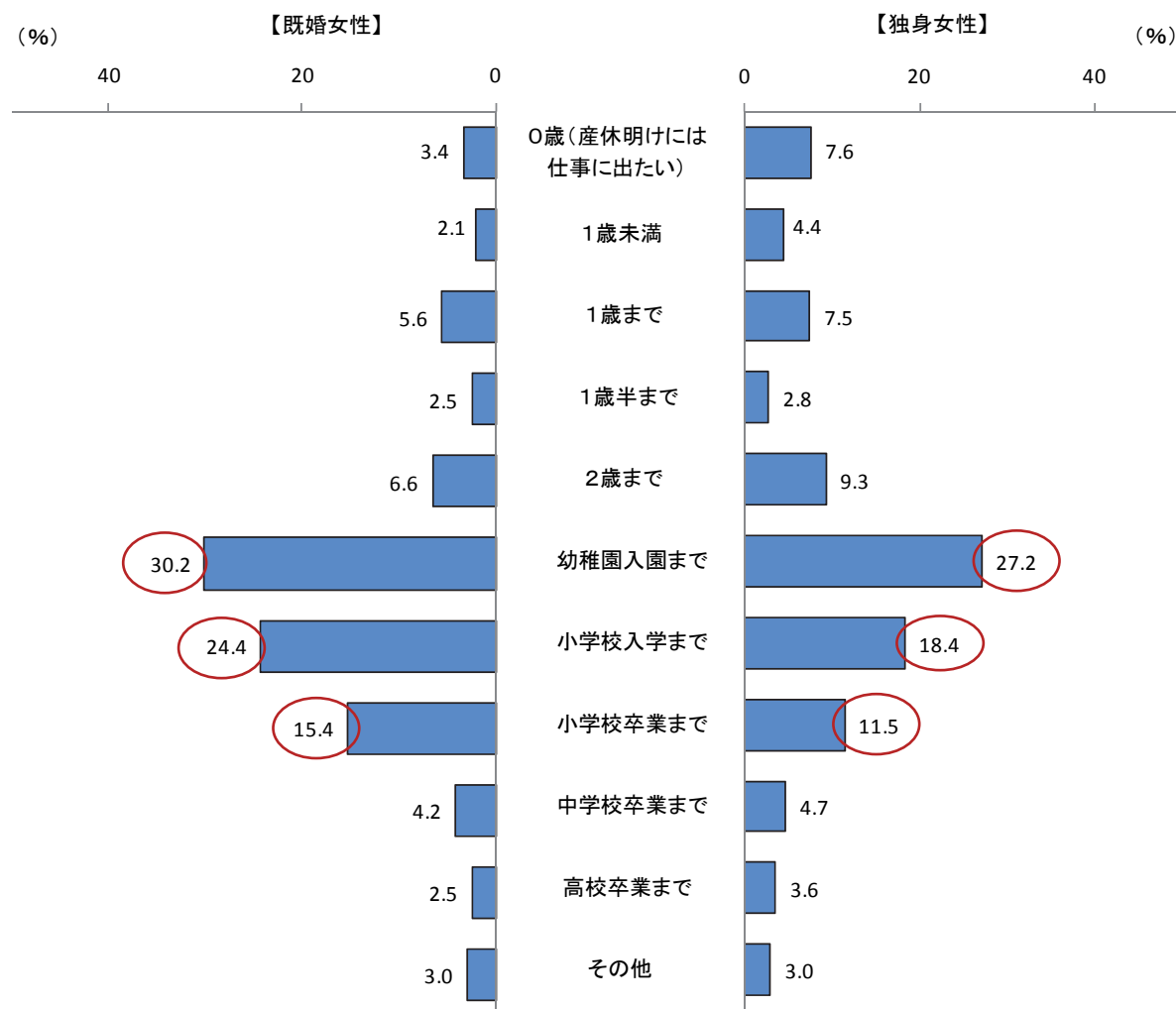
	同居期間(平均)
結婚を決める前に同居した人	18.2カ月
結婚を決めた後に同居した人	7.4カ月

IV 子どもがいくつになるまで育児に専念したいか

1 既婚女性と独身女性

子どもがいくつになるまで育児に専念したいかについて既婚女性に尋ねたところ、「幼稚園入園まで」が30.2%と最も多く、次いで「小学校入学まで」(24.4%)、「小学校卒業まで」(15.4%)が多かった。また、独身女性についても、やはり「幼稚園入園まで」が27.2%と最も多く、次いで「小学校入学まで」(18.4%)、「小学校卒業まで」(11.5%)であった(図表11)。

図表11 子どもがいくつになるまで育児に専念したいか

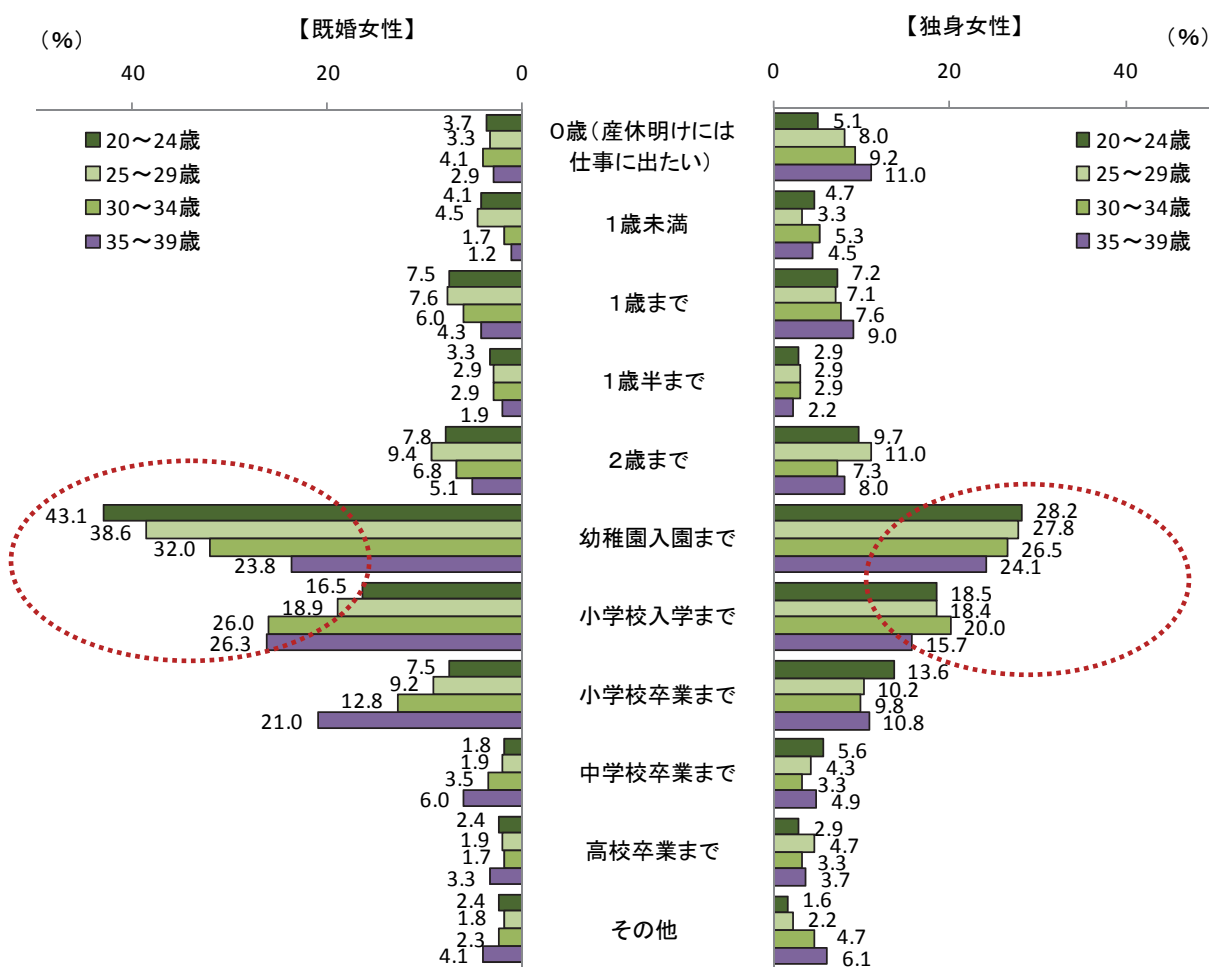


2 年齢階層別

図表 11 を年齢階層別にみたのが図表 12 である。まずは、既婚女性から。一番若い 20 代前半では子どもが「幼稚園入園まで」育児に専念したいが 43.1%と最も多く、他方、一番年齢階層の高い 30 代後半では「小学校入学まで」の回答が 26.3%と最も多くなる。「幼稚園入園まで」は年齢階層が上がるにつれて少なくなり、反対に「小学校入学まで」あるいは「小学校卒業まで」は年齢階層が上がるにつれて多くなる傾向がある。つまり、年齢の高い女性ほど、育児に専念できる時間を長くしたいと考えていることになる。

独身女性の傾向は若干異なる。「幼稚園入園まで」の回答が高年齢になるほど少なくなる点は既婚女性と同様であるが、その程度は相当に緩やかだ。また、「小学校入学まで」あるいは「小学校卒業まで」の回答が高年齢になるほど多くなる傾向はみられない。

図表 12 子どもがいくつになるまで育児に専念したいか（年齢階層別）

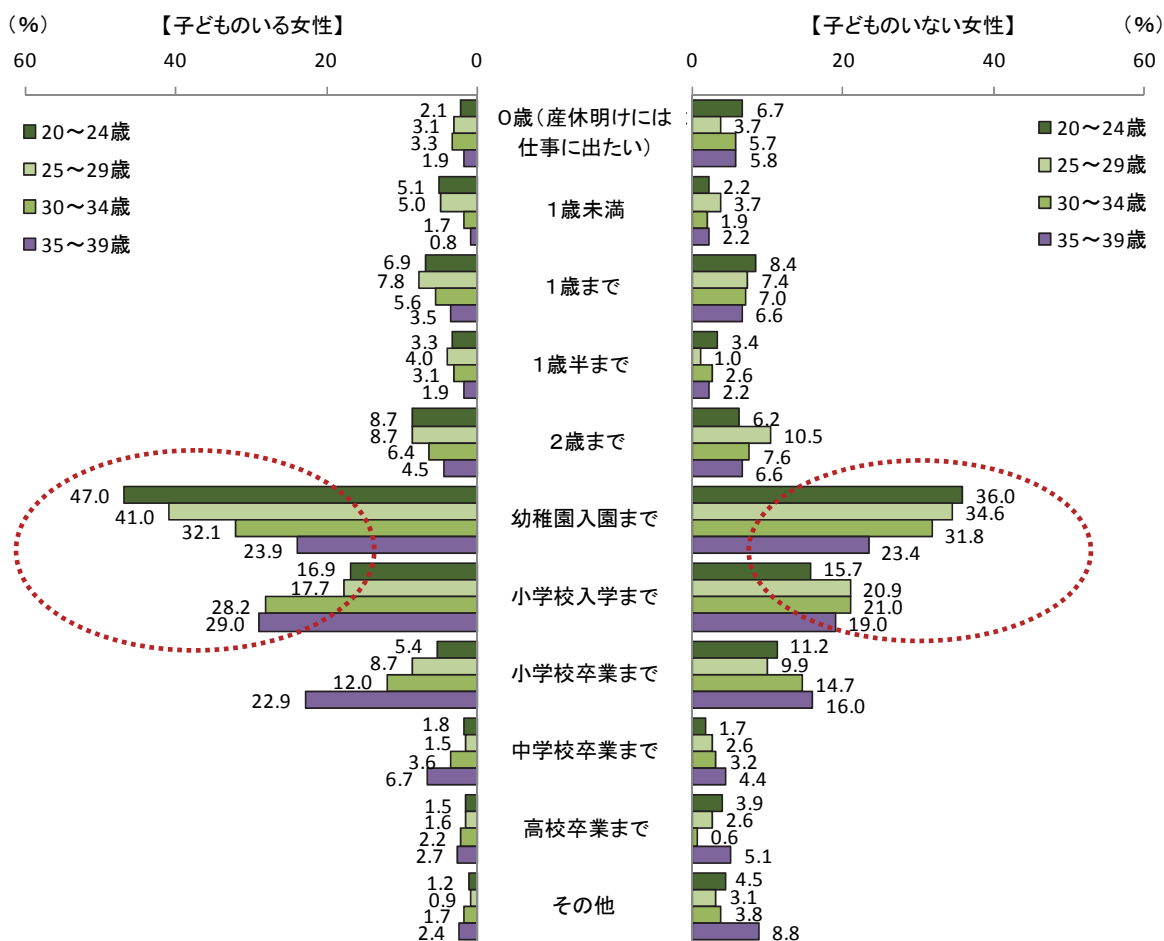


3 子どものいる・いない別

図表12の既婚女性について、子どものいる人といない人とに分けてみたのが図表13である。育児に専念するのは「幼稚園入園まで」でよいとの回答は高年齢になるほど少なくなり、反対に、「小学校入学まで」あるいは「小学校卒業まで」は育児に専念したいとの回答が高年齢になるほど多くなるという傾向は、子どものいる女性（左側）により顕著だ。次に、子どものいない女性（右側）の回答をみると、むしろ、図表12の独身女性の回答に近い印象がある。

子育て支援策などを考える際には、既婚女性全体の調査結果を見るだけでは大事なことを見落とす可能性があることに留意したい。きめの細かい施策を提案・実行するためには、年齢階層別の違いや、実際に子どものいる（より切実に育児とかかわっている）女性の希望などを丹念に抽出して分析することが欠かせない。

図表13 子どもがいくつになるまで育児に専念したいか（子どものいる・いない別）



(碓井 秀夫、渡辺 進一朗)